

柿 生 文 化

平成20年11月18日
川崎市立柿生中学校
郷土史料館情報・研究誌
第4号

「ミカリ婆さん」が来る

12月8日

玄関の履物に注意!

—— 川崎に伝わる古伝承 ——

「ミカリ婆さん」は、川崎市一帯から横浜市神奈川区・港北区・緑区などの地域に伝承されてきた一つ目の老婆の姿をした妖怪のこです。

地域の伝承によると「ミカリ婆さん」は12月8日に、村に現われて、各家の玄関からはみ出した履物に人間には見えない判を押し、持ってきた帳面に持ち主の名前を付ける。そうするとその人や家族は、病気になってしまうという。村人は、そのような禍が起きないように、自分の家の軒先に立てたさおの先に竹で編んだ目籠を釣り下げておく。そうすると「ミカリ婆さん」は目がたくさんある籠に恐れをなして退散するという。

残念ながら帳面に付けられた人はどうなるのでしょうか。「ミカリ婆さん」はその帳面を村の「道祖神」(セエノカミ)に、「今度2月8日に取りにくるからそれまで預かっておいてくれ」と言って帰ってしまいます。

村の人々の健康と安全を守る道祖神は、困ってしまい、自分の家を造って1月14日に燃してしまいます。もちろん、帳面も燃えてしまうのであります。

やがて、2月8日「ミカリ婆さん」が帳面を取りにくると道祖神は「正月に火事であって預かった帳面が燃えてしまった」と言い訳をする。婆さんは、あきらめて帰っていくという話なのです。

したがって、正月14日頃に柿生でも行なわれますが「ドンド焼き」をやりその火で焼いた餅などを食べると無病息災に暮らせるというのは、その辺からきたものと思われます。



現在、柿生周辺でこの伝承を知っている方は、わずかしかりゃいません。子供の頃、12月8日と2月8日には、玄関の戸をしっかりと締め、履物を整頓し、大変恐い思いをしながらこの日を過ごしたそうです。

一方、同じ川崎、横浜市内でも「ミカワリ婆さん」と呼び、火の災害から子供を守ってくれるという「良い」お婆さんの姿もあるようです。

実はこの話とよく似た伝承は全国的にもたくさんあります。12月8日と2月8日を「コトヨウカ」といって種々の行事が行なわれます。また、「ヨウカゾウ」という一つ目小僧が現われ、同じように帳面を付けるという地域もあります。本校のカルチャーセミナーでも川崎市民ミュージアムの高橋典子氏より講演をいただいたこともありました。

シリーズ「柿生のルーツを探る」— 第3話 —

「とび抜けて古い麻生の歴史」

今年の5月、川崎市は麻生区万福寺遺跡からの出土品を、市重要歴史記念物に指定しました。多摩丘陵では最古の資料で学術的価値が高いとしています。

これより前、昭和51年、黒川東土地改良事業で発見された遺跡から、あまり例をみない珍しい小刀状の石器が発掘され、調査団は縄文時代以前の先土器時代の物と発表。黒川には約2万年前から人が住んでいたと話題を呼んだことがありました。

続いて、昭和61年頃より始まった黒川周辺土地区画整理事業の遺跡調査では、次々に縄文時代の遺跡が発見され、それは、黒川から栗木、平尾、そして金程、向原から万福寺に及び、それらの遺跡は縄文草創期から中期、今からおよそ3千年から2万年前にわたるものと判明。私たちの住む麻生区の人類の歴史は、とび抜けて古いことが分かりました。

今回、指定を受けた万福寺遺跡からの出土品は、千点を超えるそうですが、柿生中学校周辺からもこれに類する遺物が出土しています。昭和62年、岡上でも小学校建設の際、縄文中期、奈良、平安時代に及ぶ丸山遺跡が発掘され、多くの埋蔵文化財が発見されています。

これは、昭和初期のことですが、柿中から地続きの亀井原は、古くから遺跡として知られ、そこから出土の磨製石斧（物々交換期の通貨相当品）が靖国神社の遊就館に、黒曜石の鎌（ソコ知り）が当時の帝室博物館に展示されたことがありました。（柿生・岡上村誌、昭和7年）

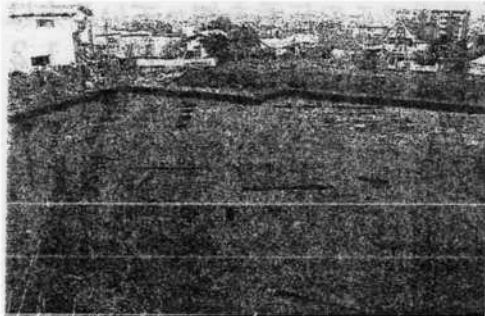
黒川が「はるひ野」に、万福寺が「新百合山手」に、栗木が「マイコンシティー」に、こうしてみると現在の麻生の文化は、とび抜けて古い麻生の歴史から起きたといえるのではないのでしょうか。

註、以前、稲城市で4万年前の遺跡報道がありました取り消されています。（捏造事件）

（文：元市議会議長・麻生区観光協会会長・柿の実幼稚園理事長 小島 一也 氏）

柿 生 文 化 2008年(平成20年)5月8日 木曜日

2008年(平成20年)5月8日 木曜日



祖先の生活 間近に

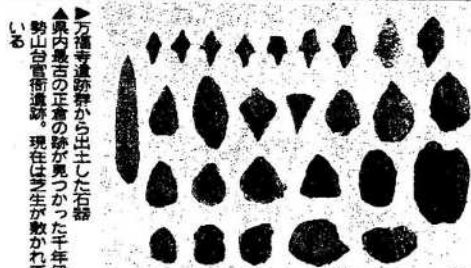
官衙遺跡は七世紀末から九世紀初頭の遺跡で、一九九六年に宅地造成をきっかけに発掘された。麻生区の一部を除く同市の大部分を横浜市北東部をつかさどっていた「武蔵国橘郡麻生」の跡とされ、栗木丘陵の正

川崎市は、千年伊勢山台官衙遺跡(高津区)を市重要史跡に、万福寺遺跡群(麻生区)の出土品を市重要歴史記念物に指定した。現物や複製を中原区の市市民ミュージアム公開展示している。

市重要史跡 千年伊勢山台官衙遺跡
市重要歴史記念物 万福寺遺跡群の出土品

市が指定、公開展示

万福寺遺跡群の出土品は、縄文時代草創期前半の隆起線文土器や石槌、石斧など千点を超える。二〇〇一年から〇二年にかけて発掘された。多摩丘陵では最古となる資料とされ「狩猟生活や土器や石器の製作技術が高い」市教育委員会(注)



▲万福寺遺跡群から出土した石槌
▲東内最古の正倉の跡が見つかった千年伊勢山台官衙遺跡。現在は芝生が敷かか

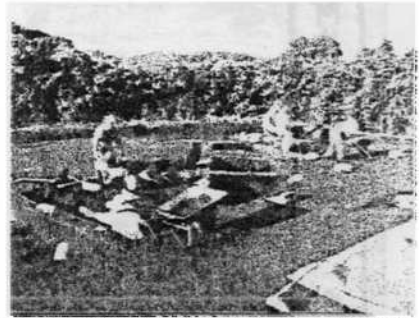
遺跡を見学しよう

～私たちの町から発見された遺跡を、発掘中に見てみよう～ を実施して

柿生中学校 黒川 保之

9月末に学校長から「早野の戒翁寺裏で遺跡の発掘調査をやっているの、生徒に発掘の体験をさせてみよう」という話をいただいた。私も発掘作業は初めてなので興味があり早速企画をしてみた。発掘を請け負っている研究所の方によると、遺跡は旧石器時代から始まり、縄文時代の住居跡をはじめ江戸時代までの遺跡が発見されるとのことだった。

発掘体験は残念ながら出来なかったが、10月18日に教育委員会の文化財課の方に直接説明をして頂きながらの見学会として実施することが出来た。縄文の住居跡を見学し、トレンチ(溝)部の地層と竪穴部の地層の違いによって、遺跡が分かり発掘できることを知った。また、馬の上半身の骨が深い穴から出土し、雨乞いの際の貢ぎものとして神様に祈っていた可能性があると言う説明には、当時の人々がいかに神を大切に思っていたかを知る大きなきっかけとなった。



さて生徒はというと、ポスターを校内に貼ると興味を持った生徒が多く申し込んでくれた。文化祭が近いこともあり「参加はしたいけれど…」というケースもあり今後もチャンスがあれば実施する約束もした。生徒の意欲にうれしさを覚えた。15人の生徒と5人の教職員・飛び入りの小学生1人で始まった見学会は、携帯電話のカメラ機能を使いたくさん記録をとる生徒の多さに驚いた。確かに自分の住む地域に2000年以上も前の、それも教科書に載っている生活跡に触れることは興奮を感じたことだろうと思う。途中で内容についての質問だけでなく、発掘する苦労や工夫についての質問まで出たのは企画者の一員として興味を広げられたのではないかと思っている。ただ個人的には今回弥生時代の住居跡まで発掘され、授業の中で自信満々に「柿生地区に弥生遺跡は無いだろう」と説明していたので、生徒に苦笑されたのも思い出である。

今年の盆夏休みに、小学校4年の娘と近隣に流れる二ヶ領用水を自転車で取水口から回ってみた。江戸時代に小泉次太夫が開鑿(かいさく)をはじめ、周囲の村々に多くの実りをもたらした用水も、幾度の騒動や改修を経ていった。その間の農民の苦労を私たちは本を片手に知ることができる。「うちの先祖は溝の口水騒動の時はどうしていただろう。」「円筒分水ができたときはどんな気持ちだったのだろう。」など実際の場所に立ちその時代にタイムスリップすることの楽しさは、社会科の教師として伝えたいことである。その農業用水路が工業用水そして生活用水に、そして親水化され現在私たちに潤いを与えようとしている。その為の工夫を娘と見ていくうちに、歴史上のものが今日に生きていくすごさと意義を感じ、また二ヶ領用水が少し好きになった。



私たちの町は縄文の時代から人々が活動し、力強く生き抜いていた。そして今日まで多くの物語があったのだと感じられるとき、子ども達は地域を誇りに思う。遺跡の発掘内容や説明は3年後の報告書でおさらいすることができるとして、今回は自分たちの生活の場に歴史を感じることによって、地域に一層の誇りを感じて欲しいと思っている。私が用水路を今まで以上に知って、地域を好きになったように。

